



私たちのシユウカツ

安城特別
支援学校の1年

安城市の安城特別支援学校高等部で進路指導を担当する教諭の仕事の一つに「企業の開拓」がある。生徒たちの実習や就職先を探す重要な仕事だ。生徒たちが就職を目指す企業にどんな仕事があり、どんな人材を求めているのか。教諭たちは現場に足を運び、人事担当者へ何度も話し合った上で関係性を広げている。

(四方さつき)

企業の開拓

高等部進路指導主事の説 安城特別支援学校には西田智洋教諭は昨年十二月、尾市内からも多くの生徒がハローワーク西尾(西尾市)の雇用指導官浅野大輔と通う。一方、同校とつながる西尾市の企業は「これまで」と共に、西尾市中畑町にある西尾市の企業は「これまで」と少なく、地元での就職を希望する生徒の要望に応えきれない。「学校と企業」を訪れた。西尾、蒲郡、豊田市に計七カ所の工場を持つ。従業員は千三百人で、約二十五人の障害者が働いている。

教諭たちが人脈づくり



女性社員(左から2人目)の仕事ぶりを見学する(右から) 説田教諭、浅野さん=西尾市中畑町で

の橋渡しをしたい」と考えればと学校側は期待する。ハローワーク西尾と連携する障業者雇用にも積極的に取り組むオティックスだが、企業を増やすきっかけになる。総務人事部の

神谷和広部長は「工場内で働いてもらうには安全面で非常に神経を使う。障害によって配慮も異なるため、現場の担当者は関わり方に悩むこともあるようだ」と明かす。同部の伊藤賢治さんは「当社の規模では毎年の採用は難しい。学校側とどのようにつながりたいのか」という課題もある」と話す。

説田教諭は「毎年、生徒の適性や各企業の雇用状況に合わせてその都度、就職先を探している」と説明した。ハローワーク西尾の浅野さんは「地元で働きたい人たちが受け入れる企業をしっかりとサポートしたい。働く中での困り事は、ぜひ相談してもらえれば」と応じた。

県内の別の特別支援学校を卒業した女性社員の仕事を学んだ。この女性社員は先輩社員とともに工場を回り、仕入れ部品を検査する業務に当たっている。入社五年目で「仕事にも慣れ、安全に作業できるように気を付けている」と話す女性社員の姿に、説田教諭は「生き生きと働いていますね」と目を細めた。

企業開拓は、そんなりと進むわけではない。「実習を新たに受け入れてもらえるなど、前進するのはごく一部。話を聞いていただけないことも結構ある」と説田教諭。生徒にとって就職は人生の一大事だし、送り出す以上は企業への責任もある。誠実に、へこたれず、諦めず。説田教諭は今後も愚直に企業を回り、会社説明会などに出向いて人脈づくりを続ける。

安城特別支援学校の就職活動に関する一年の動きを取材しています。次回は社会的自立のための授業風景などを取り上げます。